【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成29年2月23日(2017.2.23)

【公開番号】特開2015-176462(P2015-176462A)
【公開日】平成27年10月5日(2015.10.5)
【年通号数】公開・登録公報2015-062
【出願番号】特願2014-53686(P2014-53686)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　3/0362　(2013.01)
Ａ６３Ｆ　13/92　(2014.01)
Ａ６３Ｆ　13/24　(2014.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　3/033　４６１
Ａ６３Ｆ　13/92
Ａ６３Ｆ　13/24

【手続補正書】
【提出日】平成29年1月23日(2017.1.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】
左アナログ操作部２３Ｌの下側となる位置であり、かつ、ハウジング２０を把持した左手の親指で操作可能な位置に十字キー（方向キーと呼ばれることもある）２６が設けられる。この十字キー２６は、十字型の４方向プッシュスイッチであり、４つの方向（上下左右）に対応する操作部分が十字の突出片にそれぞれ９０°間隔で配置される。プレイヤが十字キー２６のいずれかの操作部分を押下することによって上下左右いずれかの方向が選択される。なお、十字キー２６は、携帯型ゲーム装置１０が実行するプログラムに応じて機能する。また、十字キー２６の形状は、図示するような形状に限らず、４方向を入力可能な形状であればどのようなものでもよい。たとえば、丸型の台座に十字状の溝が盛り上がっているような形状のもの等であってもよいし、４つのキーが分離しているようなものであってもよい。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】
［変形例］
なお、上記実施形態では、ホイール型操作部２４の配置位置として、ハウジング２０の斜め上、すなわち、「角」となる部分にホイール型操作部２４を配置（より正確には、ホイール部分を露出させるような配置）としていた。ホイール型操作部２４の位置としては、このような位置に限らない。他の実施形態では、例えば、より上側面となる位置にホイール型操作部２４を配置するようにしてもよい。つまり、ハウジング２０の「肩」となるような部分内であって、ハウジング２０を把持したときに人差し指（の指先）が届く範囲内にホイール型操作部２４を配置するように構成しても良い。なお、本実施形態では、「肩」となるような部分とは、ハウジング正面から見て右上、左上の位置となる上面および

側面の領域であり、上記の「角」よりは広い範囲をいう。例えば、ハウジング２０の上側面のほぼ左端となる位置に左ホイール２４Ｌを設け、ハウジング２０の（正面から見て）上側面のほぼ右端となる位置に右ホイール２４Ｒを設けるようにしてもよい。この場合の左ホイール２４Ｌ、右ホイール２４Ｒの位置も、ハウジング２０を把持したときに、左右の人差し指が届くような位置となっていればよい。